

第 4 回審議会における主な意見等

教育上望ましい規模について

1. 小委員会報告の中で「教員以外のサポート要員の配置に取り組んでいる」と記載されているが、答申としては今後もサポート要員が必要である旨を記載すべきである。

大規模化対応について

2. 区内大規模校へのヒアリングでは校長のみでなく、教員が感じている部分も含めて具体的に教えていただきたい。
3. 小学校のヒアリング対象を一校とした場合には意見に偏りが出てしまう可能性があり、金沢小学校と別にもう一校実施してはどうか。時間や都合により厳しいようであれば、事前に学校の状況を聞き取った内容を審議会で報告するなど検討していただきたい。
4. 社会が多様化する中、大規模校でのクラス替えは子どもの成長と学校運営の両面で大きなメリットとなるが、同学年での結びつきが中心となり異学年交流が難しくなるのではないか。また、学芸会など学校行事においては、係や役割分担のない児童が出てしまうことが懸念される。
5. 大規模校では教職員が多いことで管理職の負担が大きくなるため、副校長補佐の増員を図るべきである。また、保健室登校の対応など養護教諭の負担が大きくなることが考えられるため、負担を軽減できるような取組が必要である。
6. 学級数が金沢小学校の倍近い学校では、大規模校のメリットとして挙げられている内容が当てはまらないように思える。
7. 大規模校に限らず、今後児童・生徒数は増え続けるのか、一時的な増加なのかを念頭に置くことは重要であり、おそらく一定期間経過後は減少傾向に入るはずである。少なくとも 10 年くらい先の推計を捉えて審議会を進めていくべきであり、将来的に縮小に転じる見込みであれば、解消に向けた取組よりも学校運営上の配慮を検討するべきではないか。また、許容できる規模についても検討する必要がある。
8. 他自治体では児童・生徒数の推計を上回る事態が発生しており、改築後すぐに増築が検討されている。推計の難しさを意味しているともとれるが、教育委員会は都市開発部門と連携して推計の精度を高めていくことが求められる。また、横浜市では大規模化対応として分校扱いで 10 年限定の学校の開設しており、参考として現状を伺うべきである。

9. 多様な学びを実現するためには、普通教室と廊下がある従来の学校施設ではなく普通教室周りに多目的スペースを配置することが大切である。多くの自治体では校地面積や予算の制約から、多目的スペースが学級増対応のバッファとされ、学級数が増えた場合には教室として活用されている。
10. 京都市の京都御池中学校ではレストランなど商業施設を含めた複合化が行われ、学級数の増減を民間への貸し出しスペースで対応し、教育環境に影響が出ないような取組がされている。
11. 御所南小学校への入学希望者が多く、児童数の増加に対応するため6年生は御池中学校に通っている。板橋区では難しい状況があるかもしれないが、大規模化対応の手法の一つとして参考になるかもしれない。
12. 最新の人口ビジョンの推計と現状は大きく異なっており、現実的な今の予測に基づく取組を検討していくべきである。また、学区域を他部署や庁内で共有し、学校の枠だけではなく学校ごとの人口、まちづくりや都市開発の検討も大切な視点となるのではないかと。子どもたちの教育環境を守ることは大切である。

通学区域について

13. 地域や学校ごとに状況は様々ではあり、一つのルールですべてを検討することは難しい。通学区域の検討にあたっては多くの視点が必要となるため、各視点の意義や役割を再度整理するとともに優先順位を議論する必要があるのではないかと。
14. 学校位置の偏りや地域により起伏が多いため、道路状況等を踏まえて通学区域や通学路を柔軟に考えることも必要である。また、通学区域変更を検討する場合には、できるだけ早く地域に情報提供してもらいたい。
15. 地域にある学校の通学区域は3支部に跨っているが、現在では学校と関わりがあるのは2支部である。関係者の協力の中で学校と地域の関係は時間とともに整理されていく可能性はあるが、1校の通学区域が同一支部に含まれる（1校1支部）場合には学校・地域間でより密に連携を図ることができるのではないかと。
16. 「小学校1校の通学区域に対していくつの中学校の通学区域が交わっているか」に加えて、進学割合を見るのが今後の通学区域の検討につながる。前野小学校は3校の中学校区域と交わっているが、志村第四中学校に進学する地域は小さく、人数も少ないのではないかと。

【参考：前野小学校の進学状況】

単位：人

	上板橋第三中	志村第一中	志村第四中	他区立中学校	その他
令和3年度	26	33	6	1	16
令和2年度	39	40	7	2	14
令和元年度	34	37	5	0	9

※前野小の通学区域は、上板橋第三中・志村第一中・志村第四中の通学区域と交わる

学びのエリアは「上板橋第三中・前野小・上板橋第四小」

17. 志村小学校と志村第四中学校の通学区域の検討に関わっているが、思った以上に難航しており難しさを感じる。改築に伴う通学区域変更では新校舎に通いたいと思う方が多く、学校規模や地域区域との整合性を含めてすべてが納得する通学区域を定めることはできない。学校や保護者、地域の方々の考え方も様々であり、基準はあいまいにしないと決まるものも決まらないのではないかと感じる。
18. 子どもの教育環境を前提に、小学校と中学校の通学区域を合わせるべきであると考えていたが、各委員の意見を聞き現実的には困難な状況があると感じた。一つの小学校から複数の中学校に進学する状況に不安を感じる6年生は少なくないはずであり、3校の中学校が交わる通学区域については改善を図ることができれば良い。一方で、複数の中学校に進学することで人間関係をリセットし、新たな環境でチャレンジできるといったメリットもある。
19. コミュニティ・スクール委員会には子どもの通学を見守るスクール・ガードを始めとして子どもと接する機会の多い方々が委員となっており、先生たちと熟議をする中で良い関係を築くことができていると感じる。学校からの相談は子どもたちの安全に関する内容が多い。